

1 第1分科会 担当:尾道・三原支部 基調講演【公開対談】を深める



田山 謙堂氏
中小企業家同友会全国協議会 顧問
(株)千代田エネルギー 相談役
東京同友会名誉会員



国吉 昌晴氏
中小企業家同友会全国協議会 顧問

～社員が力を発揮できる会社をつくるには～

基調講演をもとに、質疑応答とグループ討論でじっくりと学びを深めます。
グループ討論では、自社のことを語り、ほかの参加者の意見も聞き、基調講演から学んだことをどう実践するか、深めていきます。

2 第2分科会 担当:青年部会 自己変革～自ら変わり、会社を変える～



松本ギフト(株)
代表取締役
松本 勝彦氏
広島同友会福山支部理事

～将来のビジョンを描く大切さ～

2005年に4年勤めた化学系メーカーを退職し30歳の時、実家の家業である松本ギフト(株)に入社。今年で創業111年になる。入社後2年は赤字、さらに2,000万の売上が3年後に確実に消失するという時期の入社でした。これらの危機を乗り越えた経験から、将来のビジョンを描くことの大切さを痛感。2007年31歳の時に本会と同時に青年部会に入会。それを機に自分自身の意識が変わりはじめます。現在は将来を見据え定年退職する社員を見越し、人材雇用を促進し将来の人材に投資。2014年4月に代表取締役役に就任と同時に、福山支部青年部会長に就任。青年部会長の折、41歳ビジョンシートの取り組みをスタート。青年部会で41歳ビジョンの活用方法、また自社への活かし方について、さらには将来のビジョンを描く大切さについて報告します。

3 第3分科会 担当:経営労働委員会 理念『しあわせづくり、味づくり』で地域一番店をめざす



(有)おか半
代表取締役
岡崎 磊造氏
広島同友会政策副委員長
(前経営労働委員長)

～経営者の覚悟と全社の実践と～

(有)おか半では、「社内委員会活動」「ありがとうノート」など工夫をこらし、関わるすべての人が幸せになる会社づくりに取り組み、今ではお店で働くパートさんが経営指針を説明できるまでになりました。
草創期には雇っては退職の繰り返しを経験し、一人涙した岡崎さん。悔しさをばねに学んだことを自社で実践し、組織的に取り組まれた成果を報告いただきます。経営指針が“飾ってある”方には特におすすめです。

4 第4分科会 担当:求人社員教育委員会 早く行きたいなら一人で行きなさい！ 遠くへ行きたいなら皆で行きなさい！！



(株)木村工業
代表取締役
木村 晃一氏
東京同友会副代表理事
経営労働委員長

～共に育ち、共に生き、共に発展の実践～ (社員の自立を育てる仕組みを社内で作る)

先代社長は親分肌で面倒見がよく、まさに子どもと父親のように社員を大切にしていました。しかし、社員に子どものように関わる事が「社員の幸せ」なのかと疑問を持ちます。
毎年、年間8,000万円という返済や3K業務で新規採用しても辞める、を繰り返すなか、指針・採用・育成を試行錯誤。経営者のいう事をだけを聞き、働くだけでなく、真に人間として自立してほしいという社員共育の実践報告。

5 第5分科会 担当:呉支部 社員の幸福度アップが会社の業績アップにつながった



(一財)操風会 岡山旭東病院
院長
土井 章弘氏
岡山同友会常任相談役

～顧客(患者)満足度の高い病院が実践していること～

医療法改正や社会の価値観の変化等により、病院経営を取り巻く環境は厳しい変革の波にさらされています。土井院長は、「病院経営はまず患者さんを第一に、理念に基づく経営をすることが大切であり生き残りの方法である」と力説されています。特に大事にしていることが、経営理念の中の一つである「職員ひとりひとりが幸せでやりがいのある病院」。職員の幸せの指標「GHH(病院内総幸福)」を設定し、数値化しています。職員満足度の向上が質の高いサービスにどのようにつながるのかを同院の全職員一丸の経営の歩みから学びます。

6 第6分科会 担当:障害者問題委員会 人を生かす経営の真髓を教えてくれた二人の社員



真和建装(株)
取締役会長
杉浦 昭男氏
愛知同友会理事

～社員を幸せにする経営者の覚悟～

真和建装には、特別支援学校を卒業し、入社25年目と6年目になる社員が働いています。杉浦氏は、二人が何気なく発することばから、彼らの生きてきた背景を思い、生きる意欲や向上心を肌で感じてきました。また、関わる中で、生きること、働くこと、幸せとは何かに気づかされ、社員を幸せにするのは経営者の覚悟だと確信しました。
「人間尊重とは、すべての人間が平等で自由、幸せになる権利を行使できること」と語る杉浦氏の報告から、人を生かす経営の真髓について学びます。

7 第7分科会 担当:広島西支部 廿日市市産業振興基本条例を地域に広げるには



パネリスト
廿日市市
環境産業部 部長
永田 英嗣氏

■URL:廿日市市
https://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/



パネリスト
廿日市商工会議所
会 頭
細川 匡氏
(デリカウイング(株)
代表取締役会長 兼 CEO)

■URL:廿日市商工会議所
http://www.cci201.or.jp/



コーディネーター
県立広島大学
名誉教授
野原 建一氏
(廿日市市産業振興協議会 会長)

■URL:県立広島大学
http://www.pu-hiroshima.ac.jp

～廿日市のビジョンから地域の未来を考える～ パネルディスカッション

広島県内で初めて、同友会が関わり条例が制定(4/1施行)されました。産業振興基本条例と「中小企業」ではなく「産業」が冠されていますが、内容は「中小企業・小規模企業振興基本条例」です。
廿日市市だけの問題ではなく、他地域の振興や発展に同友会または企業・市民としてどう関わっていくのが課題です。この分科会では行政、経済団体、学識経験者の立場から地域の未来を参加者の皆さんと考えます。

8 第8分科会 担当:地域内連携推進 地球環境 中小企業のできるエネルギーシフトとは



永本建設(株)
代表取締役
永本 清三氏
広島同友会地域内連携推進委員長

■設 立:1989年
■資 本 金:1,200万円
■年 商:5億円
■社 員 数:20名(内パート2名)
■広島県産材と自然素材を使った
木の家でつくる注文住宅
■URL:http://nagamoto-home.com/

～地域と地球環境問題から、企業の取り組みを考える～

エネルギーシフトや地球環境問題。どちらも大きな課題で「よくわからない」「自分達に何ができるか」というのが偽らざる実感ではないでしょうか。そんな中、永本氏は「私たちが家づくりに広島の木にこだわるのは、木が広島の風土を知っているから。これに共感する顧客は多くはないかもしれないが、そんな顧客と楽しいやりがいのある仕事をしたい」と語ります。地域木材の地産地消の取り組みを推進し、地元の漁民の森づくり運動を主宰、薪ストーブの販売も手掛ける永本さんの実践から、私たち自身ができるエネルギーシフトを考えます。

9 第9分科会 担当:政策委員会 「もう貸せない」から、 どうしたら「もっと貸せる」関係をつくれるか



金融庁 総務企画局
地域金融企画室長
検査局 総務課
地域金融機関等モニタリング長
日下 智晴氏

広島県出身、1984年広島銀行入行、融資企画部長、大阪支店長、リスク統括部長を歴任、事業再生・地域再生に携わり、2015年10月同行退職。同年11月金融庁監督局総務課地域金融企画室長に就任

～金融行政の大きな変化に学ぶ～

金融行政は、金融検査マニュアルで縛った「銀行の健全性のため」から、借り手である企業のニーズをくみ取る「金融仲介の改善へ」と大きく変化しています。背景には地域経済の衰退があり、金融庁は地域経済の循環役を果たす金融機関の役割を再考し、「もう貸せない」からどうしたら「もっと貸せる関係をつくれるのか」を提起、企業と金融機関の関係強化を支援しようとしています。
永年、地元金融機関でリレーションシップバンキングに取り組み、金融庁の地域金融企画室長に就任した日下智晴室長のお話から、もっと貸したい企業、金融機関になるための課題や悩みを交流します。

10 第10分科会 担当:広島東支部 (見学分科会)伝統×革新で新しい価値を創造



(株)晃祐堂
取締役社長
土屋 武美氏
広島同友会広島東支部
安芸地区役員

■設 立:1979年
■資 本 金:1,000万円
■年 商:5億円
■社 員 数:72名
■毛筆・化粧筆の製造販売
■URL:http://www.koyudo.co.jp/

～挑戦の連続が新市場を創造～

晃祐堂は3名の伝統工芸士が所属する伝統的な熊野筆製造業。一方で「カワイイモノ」プロジェクトに参加する化粧筆の製造販売業という一面もあります。
第10回 ニッポン新事業創出大賞アントレプレナー部門 優秀賞、第23回中国地域ニュービジネス特別賞を受賞。ザ・広島ブランドに認定、そして、G7広島外相会合政府代表団への記念品と躍進を続ける会社です。伝統的な書筆製造から化粧筆事業への参入、また、地域活性の一環としての観光受け入れも開始し、日々挑戦を続けお客様の変化に対応しています。

定員40名
※定員になり次第、締切